

# Linux 版 View Client のヘルプ

2012 年 5 月

Linux 版 View Client

このドキュメントは新しいエディションに置き換わるまで、ここで書いてある各製品と後続のすべてのバージョンをサポートします。このドキュメントの最新版をチェックするには、<http://www.vmware.com/jp/support/pubs> を参照してください。

JA--00

vmware®

最新の技術ドキュメントは VMware の Web サイト (<http://www.vmware.com/jp/support/pubs/>) にあります  
VMware の Web サイトでは最新の製品アップデートも提供されています。

このドキュメントに関するご意見およびご感想がある場合は、[docfeedback@vmware.com](mailto:docfeedback@vmware.com) までお送りください。

Copyright © 2012 VMware, Inc. 無断転載を禁ず。本製品は、米国著作権法および米国知的財産法ならびに国際著作権法および国際知的財産法により保護されています。VMware 製品には、<http://www.vmware.com/go/patents-jp> に列記されている 1 つ以上の特許が適用されます。

VMware は、米国およびその他の地域における VMware, Inc. の登録商標または商標です。他のすべての名称ならびに製品についての商標は、それぞれの所有者の商標または登録商標です。

**VMware, Inc.**  
3401 Hillview Ave.  
Palo Alto, CA 94304  
[www.vmware.com](http://www.vmware.com)

**ヴァイムウェア株式会社**  
105-0013 東京都港区浜松町 1-30-5  
浜松町スクエア 13F  
[www.vmware.com/jp](http://www.vmware.com/jp)

# 目次

- 1 View Client について 5
- 2 View デスクトップへのログイン 7
- 3 View Client の証明書チェック モード 9
- 4 キーボードとモニタ 11
- 5 テキストのコピー アンド ペースト 13
- 6 デスクトップの切り替え 15
- 7 デスクトップからのログオフまたは切断 17
- 8 デスクトップのロールバック 19
- 9 View Client のトラブルシューティング 21
  - デスクトップのリセット 21
  - View Client のアンインストール 21
- インデックス 23



# View Client について

---

VMware® View™ Client を使用すると、仮想デスクトップに接続することができます。

これらのヘルプトピックでは、仮想デスクトップへの接続および使用手順について説明します。仮想デスクトップおよび仮想デスクトップにインストールされたソフトウェアについては、View 管理者へお問い合わせください。



## View デスクトップへのログイン

---

View 接続サーバにログインした後、使用を許可されている View デスクトップに接続できます。

### 開始する前に

View 管理者から以下の情報を取得します：

- VPN（仮想プライベート ネットワーク）接続をオンにするかどうかに関する指示。
- VMware View server への接続に使用するサーバ名。
- ポートが 443 ではない場合、VMware View server への接続に使用するポート番号。
- Active Directory ユーザー名とパスワード、RSA SecurID ユーザー名とパスコード、RADIUS 認証ユーザー名とパスコードなどのログインに必要な認証情報。
- ログインするためのドメイン名。

管理者が許可している場合、View server から提示される SSL 証明書について、証明書確認モードを構成できます。[第 3 章 \[View Client の証明書チェック モード \(P. 9\)\]](#) を参照してください。

### 手順

- 1 VPN 接続が必要な場合、VPN をオンにしてください。
- 2 ターミナルウィンドウを開いて「**vmware-view**」と入力するか、または Ubuntu メニューバーから [[アプリケーション]] - [[インターネット]] - [[VMware View Client]] を選択します。
- 3 必要に応じてサーバ名とポート番号を入力し、[[続行]] をクリックします。

**view.company.com:1443** は、デフォルト以外のポートを使用した一例です。

- 4 RSA SecurID の認証情報または RADIUS の認証証明書の入力を求められた場合、ユーザー名とパスコードを入力して [[続行]] をクリックします。
- 5 ユーザー名とパスワードを入力し、ドメインを選択した後、[[OK]] をクリックします。

ログイン ダイアログ ボックスが表示される前に、確認する必要があることを知らせるメッセージが表示される場合があります。

- 6 デスクトップセキュリティ インジケーターが赤に変わり、警告メッセージが表示されたら、プロンプトに応答します。

通常、この警告は View 接続サーバが証明書サムプリントをクライアントに送信しなかったことを示します。サムプリントは証明書公開鍵のハッシュであり、公開鍵を省略したものとして使用されます。View 接続サーバ 4.6.1、5.0.1 以降のバージョンは、サムプリント情報を送信しますが、以前のバージョンではこれを実行しません。

- 7 (オプション) 使用する表示プロトコルおよびウィンドウ サイズを選択します。

オプション	説明
表示プロトコル	デフォルトは、[PCoIP] です。代わりに Microsoft RDP を使用する場合、デスクトップ名の下にある [[PCoIP]] をクリックして切り替え、[[Microsoft RDP]] を選択します。
ウィンドウ サイズ	デフォルトは、[すべてのモニタ] です。他のウィンドウ サイズを選択するには、[大画面] や [カスタム サイズ] などのデスクトップ名の下にある他のオプションの 1 つをクリックします。

- 8 View デスクトップのショートカットをダブルクリックして、接続します。



## View Client の証明書チェック モード

管理者は、またときにはエンド ユーザーは、サーバの証明書チェックが失敗した場合にクライアント接続を拒否するかどうかを設定できます。

証明書確認は、View 接続サーバと View Client 間の SSL 接続に対して実行されます。証明書検査では、次のような検査が行われます。

- 証明書の目的は、送信側の ID 検証やサーバ通信の暗号化以外にあるか。つまり、証明書のタイプは正しいか。
- 証明書は期限切れになっているか、また有効なのは未来のみか。つまり、証明書はコンピュータの時刻に応じて有効になっているか。
- 証明書上の共通名は、それを送信するサーバのホスト名と一致しているか。ロード バランサが View Client をあるサーバにリダイレクトする際に、証明書が View Client に入力したホスト名と一致しない場合、不一致が発生する可能性があります。クライアントにホスト名ではなく IP アドレスを入力した場合でも、不一致の原因となる可能性があります。
- 不明なまたは信頼されていない証明機関 (CA) によって署名された証明書か。自己署名された証明書は、信頼されていない CA の証明書タイプの 1 つです。

チェックをパスするには、証明書のトラスト チェーンが、デバイスのローカル証明書ストアでルートになっている必要があります。

サーバ証明書を提示するほかにも、バージョン 4.6.1 および 5.0.1 以降の View 接続サーバは View Client に証明書のサムプリントも送信します。サムプリントは証明書公開鍵のハッシュであり、公開鍵を省略したものとして使用されません。View server がサムプリントを送信しない場合、接続が信頼されていないことを知らせる警告が表示されます。

管理者が許可している場合、証明書確認モードを設定することができます。VMware View Client メニュー バーまたは View デスクトップ メニュー バーから [[ファイル]] - [[環境設定]] を選択します。選択肢は次の 3 つです。

- [[信頼が確認されていないサーバには絶対に接続しない]]。証明書の確認に失敗した場合、クライアントはサーバに接続できなくなります。失敗したチェックは、エラー メッセージに一覧表示されます。
- [[信頼されていないサーバに接続する前に警告する]]。サーバが自己署名証明書を使用していることが原因で、証明書の確認に失敗した場合、[[続行]] をクリックして警告を無視することができます。自己署名証明書の場合、証明書名は View Client に入力した View 接続サーバ名と一致する必要はありません。
- [[サーバ ID 証明書を検証しない]]。この設定は、証明書チェックは View によって一切実行されないことを意味します。



## キーボードとモニタ

View デスクトップでは、複数のモニタとすべてのタイプのキーボードを使用できます。特定の設定を実行すると、最高のユーザー エクスペリエンスを実現できます。

### 複数のモニタを使用する場合のベストプラクティス

以下は、View デスクトップで複数のモニタを正しく使うための推奨事項です。

- PCoIP を使用すれば、十分なビデオ RAM がある場合、最大 4 つまでのモニタを使用できます。  
Ubuntu クライアントシステムで 3 つ以上のモニタを使って View デスクトップを表示するには、`kernel.xhmmx` 設定を適切に構成する必要があります。次の公式を使用します：  
 $\text{<最高水平解像度> X <最高垂直解像度> X <モニタの最大数> X 4$   
たとえば、`kernel.shmmax` を 65536000 に手動で設定すれば、2560x1600 の画面解像度で 4 つのモニタを使用できるようになります。
- RDP では、ディスプレイはスパン モードでのみ表示可能です。スパン モードを使用してディスプレイを複数のモニタに適切に拡張するには、モニタは同じ高さである必要があります。

### 画面解像度

画面解像度を設定する際は、以下のガイドラインを考慮に入れます：

- セカンダリ モニタ上で View デスクトップを開き、そのモニタ上で画面解像度を変更すると、View デスクトップはプライマリ モニタに移動します。
- PCoIP では、複数のモニタがある場合、各モニタの解像度を個別に調整できます。ディスプレイごとの解像度は最高 2560x1600 です。
- RDP では、複数のモニタがある場合、各モニタの解像度は個別に調整できません。モニタの高さがすべて同じ場合、ディスプレイは全モニタに拡張されます。

### キーボードの制限

ほとんどの場合、View デスクトップと物理コンピュータのいずれを使用しても、キーボードの動作は同じです。以下は、発生する可能性のある制限のリストです。ただし、周辺機器のタイプおよびクライアント システム上のソフトウェアにより異なります：

- マルチメディア キーボードのマルチメディア キーの一部が動作しない場合があります。たとえば、[Music] キーと [My Computer] キー は動作しない可能性があります。

- RDP を使用してデスクトップに接続し、Fluxbox ウィンドウ マネージャを使用している場合、View デスクトップでスクリーンセーバーが動作中であれば、一定のアイドル後、キーボードが動作を停止する可能性があります。

使用するウィンドウ マネージャに関係なく、VMware は View デスクトップではスクリーンセーバーをオフにして、スリープタイマーを指定しないことをお勧めします。

## テキストのコピー アンド ペースト

---

クライアントシステムとリモート View デスクトップの間でテキストをコピー アンド ペーストできます。管理者がこの機能を有効にしていると、View デスクトップとクライアントシステムの間、または 2 つの View デスクトップの間でテキストをコピー アンド ペーストできます。制限事項がいくつか存在します。

PCoIP 表示プロトコルを使用し、View 5.x 以降の View デスクトップを使用している場合、View の管理者は、クライアントシステムから View デスクトップへ、または View デスクトップからクライアントシステムへのコピー アンド ペースト操作のみを許可するように設定できます。また、双方向のコピー アンド ペースト操作を許可したり、これらの操作を禁止したりすることもできます。

プレーン テキストまたは書式付きテキストを、View Client と View デスクトップ間でコピーできますが、ペーストされたテキストはプレーン テキストになります。

グラフィックは、コピー アンド ペーストできません。また、View デスクトップとクライアント コンピュータのファイルシステムの間では、ファイルのコピー アンド ペーストはできません。



## デスクトップの切り替え

---

デスクトップに接続している場合に、別のデスクトップに切り替えることができます。

### 手順

- ◆ 同じサーバ上、または異なるサーバから View デスクトップを選択します。

オプション	操作
同じサーバの異なる View デスクトップを選択する	[[デスクトップ]] - [[切断]] をメニュー バーで選択します。
異なるサーバの View デスクトップを選択する	メニュー バーから [[ファイル]] - [[別のサーバを選択]] を選択します。





## デスクトップからのログオフまたは切断

ログオフせずに View デスクトップから切断すると、アプリケーションは開いたままになります。

View デスクトップに接続していないときに、最初に接続しなくてもログオフできます。この機能を使用すると、デスクトップに <Ctrl> + <Alt> + <Del> を送信してから [[ログオフ]] をクリックすると同じ結果になります。

**注意** Windows のキーの組み合わせ <Ctrl> + <Alt> + <Del> は、View デスクトップではサポートしていません。<Ctrl> + <Alt> + <Del> の代わりに、メニューバーから [デスクトップ] - [Ctrl+Alt+Del の送信] を選択することもできます。

あるいは、<Ctrl> + <Alt> + <Insert> を押します。

### 手順

- ログオフせずに切断する。

オプション	操作
View Client も終了する	ウィンドウの隅にある [閉じる] ボタンをクリックするか、メニューバーの [[ファイル]] - [[終了]] を選択します。
同じサーバの異なる View デスクトップを選択する	[[デスクトップ]] - [[切断]] をメニューバーで選択します。
異なるサーバの View デスクトップを選択する	メニューバーから [[ファイル]] - [[別のサーバを選択]] を選択します。

**注意** View 管理者は、切断された時点で自動的にログオフするようにデスクトップを設定できます。その場合、デスクトップで開いているプログラムは停止します。

- ログオフして切断する。

オプション	操作
デスクトップのオペレーティングシステムで	Windows の [スタート] メニューを使用してログオフします。
メニューバーから	[[デスクトップ]] - [[切断してログオフ]] を選択します。 この手順を使用すると、初めに、View デスクトップで開いているファイルが保存されずに閉じられます。

- View デスクトップに接続していない場合にログオフする。

- デスクトップショートカットがあるホーム画面から、デスクトップを選択し、メニューバーから [[デスクトップ]] - [[ログオフ]] を選択します。
- 入力を要求されたら、View デスクトップにアクセスするための認証情報を入力します。

この手順を使用すると、初めに、View デスクトップで開いているファイルが保存されずに閉じられます。



## デスクトップのロールバック

---

ロールバックは、Windows PC またはノートパソコン上のローカル モードでの使用のためにチェックアウトした仮想デスクトップに行った変更を廃棄することになります。

View administrator がこの機能を利用でき、デスクトップがチェックアウトされている場合のみ、View デスクトップをロールバックできます。



**注意** ローカル モードのデスクトップが変更され、ロールバック前に変更が View サーバにレプリケートされない場合は、変更は失われます。

---

### 開始する前に

- Active Directory ユーザー名とパスワード、RSA SecurID ユーザー名とパスコード、RADIUS 認証ユーザー名とパスコードなどのログインに必要な認証情報を取得します。

### 手順

- 1 View Client のホーム画面に [ [View 接続サーバ] ] プロンプトが表示されている場合、サーバ名を入力して、[ [続行] ] をクリックします。
  - a RSA SecurID の認証情報または RADIUS の認証証明書の入力を求められた場合、ユーザー名とパスコードを入力して [ [続行] ] をクリックします。
  - b ログイン ダイアログ ボックスでユーザー名とパスワードを入力します。
- 2 View デスクトップのショートカットを表示している View Client のホーム画面で、デスクトップを選択して、メニューバーから [デスクトップ] - [デスクトップのロールバック] を選択します。

View デスクトップがロールバックされた後、Linux クライアントからログインできます。



## View Client のトラブルシューティング

View Client に関するほとんどの問題は、デスクトップのリセットまたは VMware View Client の再インストールで解決することができます。

この章では次のトピックについて説明します。

- [デスクトップのリセット \(P. 21\)](#)
- [View Client のアンインストール \(P. 21\)](#)

### デスクトップのリセット

リセット操作を実行すると、デスクトップがシャットダウンおよび再起動されます。保存されていないデータは失われます。デスクトップオペレーティングシステムが応答しなくなった場合、デスクトップのリセットが必要となる場合があります。

View デスクトップをリセットする操作は、物理的な PC を強制的に再起動するためにその PC のリセット ボタンを押す操作に相当します。View デスクトップで開いているすべてのファイルが、保存されずに閉じられることとなります。

デスクトップをリセットできるのは、View 管理者がこの機能を有効にしている場合のみです。

#### 手順

- ◆ [デスクトップのリセット] コマンドを使用します。

オプション	操作
デスクトップのオペレーティングシステムで	メニューバーから [デスクトップ] - [デスクトップのリセット] を選択します。
デスクトップショートカットがあるホーム画面から	デスクトップを選択し、メニューバーから [デスクトップ] - [デスクトップのリセット] を選択します。

View デスクトップのオペレーティングシステムが再起動されます。View Client がデスクトップから切断されます。

#### 次に進む前に

システムが再起動するのを待ってから、View デスクトップへの接続を試行します。

### View Client のアンインストール

View Client の問題を VMware View Client アプリケーションをアンインストールし、再インストールして解決できることがあります。

他のアプリケーションをアンインストールするのと同じ方法で、View Client をアンインストールします。

たとえば、[アプリケーション] - [Ubuntu Software Center] を選択し、[インストールされているソフトウェア] セクションで [vmware-view-client] を選択し、[削除] をクリックします。

アンインストールが完了すると、アプリケーションを再インストールできます。



# インデックス

## C

Ctrl+Alt+Delete 17

Ctrl+Alt+Del メニューコマンドノソウシン 17

## V

View Client のアンインストール 21

View Client

デスクトップから切断 17

トラブルシューティング 21

View 接続サーバ、接続 7

View デスクトップ、ロールバック 19

View デスクトップのロールバック 19

## お

オプション

画面レイアウト 7

表示プロトコル 7

## か

画面解像度 11

画面レイアウト 7

環境設定、デスクトップ 7

## き

キーボード 11

## し

証明書、問題の無視 9

## せ

接続

View 接続サーバ 7

デスクトップ 7

## て

テキスト、コピー 13

テキストのコピー 13

テキストのペースト 13

デスクトップ

リセット 21

ロールバック 19

デスクトップ

接続 7

表示オプション 7

表示プロトコル 7

desktop

切り替え 15

ログオフ 17

View デスクトップカラセツダン 17

デスクトップの切り替え 15

デスクトップのリセット 21

## と

ドメイン 7

トラブルシューティング 21

## ひ

表示オプション、デスクトップ 7

表示プロトコル、デスクトップ 7

## も

モニタ 11

## ろ

ログイン、View 接続サーバ 7

ログオフ 17

